

【新型コロナ後遺症に対する取り組みと現状】

Q&A

Q1. 味覚障害が1年9か月治りません。治る見込みは少ないですか？治療法はありますか？

A. コロナ後遺症による味覚障害は、2～3カ月でよくなる場合が多いのですが、なかなか治らない場合もあります。栄養素の亜鉛・鉄分などの不足や、お薬や持病との関連、そのほか口腔内の原因で起こることもあります。耳鼻咽喉科や歯科の検査が必要となることもあります。長期間続いて心配な場合は、後遺症外来を受診されることをお勧めします。

Q2. ワクチン接種によって、後遺症の現れ方は違うのでしょうか。

A. デルタ株までの時期では、ワクチンを複数回接種していた方が後遺症の発生が少ないということが報告されています。オミクロン株になってからの後遺症についての検証には、ワクチン接種後の感染例や、オミクロン株対応ワクチンの接種歴など、より細かい解析が必要です。変異株にかかわらず、感染したときに重症化してしまうと後遺症も長期化する傾向がありますので、感染時に重症化させないという意味では、ワクチンは有用と考えています。

Q3. 私は呼吸困難感が主訴で岡山大学病院の先生に大変お世話になっています。

症状に波があるのですが、よくあることでしょうか。また、特に苦しいときには、心を落ち着かせるような精神薬が効くのですが、これもまたよくあることなのでしょうか。

A. オミクロン株になってからの後遺症では、従来株やデルタ株の時と比較して、倦怠感や頭痛とともに呼吸困難感を訴える人が増えています。肺のレントゲン・CT検査や血液検査などで大きな異常がなければ心配しすぎることはないのですが、定期的に通院していただきながら、症状がひどくなる場合や症状に変動がある場合は、担当医とよくご相談ください。

Q4. ワクチン副反応の種類と治療、治る期間を教えてください。

A. ワクチン副反応の症状は人によりさまざま、治療方法や治る期間もそれぞれで異なるため、一概にはお答えすることが難しいです。接種後の腕の痛みや発熱・倦怠感は、2～3日で軽快することがほとんどで、痛み止めや解熱鎮痛薬を用いて軽減できます。岡山県が「新型コロナワクチン専門相談センター」を設置しており、万が一、重い副反応が出た場合は、岡山大学病院を含めた複数の医療機関で「ワクチン副反応外来」を設置して対応していますのでご相談ください。

Q5. コロナ後遺症外来受診の要件として、感染後1ヶ月経過とありますが、なぜですか？

A. 新型コロナ陽性の判明後1カ月以内は、ウイルス感染による急性期の症状がまだ残っていたり、ウイルスを排出して人に感染してしまう可能性があるため、受診を控えていただいています。なお、厚生労働省では新型コロナウイルス感染症の罹患後症状（いわゆる後遺症）とは「少なくとも2カ月以上持続している症状」と定義していますが、それまで待つと不安が大きくなる場合もありますので、1ヶ月経過で受診いただいています。

Q6. 幼少期に川崎病を患って入院していたことがあります。今は成人して特に受診はしていませんがコロナ罹患してその後コロナ後遺症になりました。川崎病とコロナ後遺症の関係性はあるのでしょうか？

A. 小児では、新型コロナ感染に続いて、川崎病に似たような強い炎症を起こす病気が海外で報告されたことがあります。これは小児多系統炎症性症候群（MIS-C）と呼ばれていますが、現状ではMIS-Cという病態が川崎病とどのように違うのか、結論には至っていません。コロナ後遺症かな？と思われる症状が感染によるものかどうか心配な場合は、かかりつけ医を受診され、小児期の病歴を伝えた上で必要な検査を受けることをお勧めします。